

吳復第六號の二四

査閱

一淨書

校合

九月

四日發付

部長

課長

班長

主任

八月二十九日起案

引揚接復司

業務第三課長

宛

文書昭和三年九月三日

發信者名

部長

事務連絡

絡

八月二十四日の落息九遭

難者命日付有る内、
通し特ト

問題もな(静)り

記

一 八月二十日在日本朝鮮人統連合会広島縣吳支部の

東部し今年は特に慰心祭を行中、所存であるから当日は

一定時間の各個人自由拜礼がし、その申出のあつたのが拜礼時間

を一〇〇〇より一五〇〇までと了承し

吳地方復員殘務處理部

翌二十日午後一時廣島縣本部。

氏より前記同様

の電話連絡があったのを了承した。

二 八月二十二日在日本大韓民国留米國廣島縣本部より供花

があった拜礼をいらい有電話連絡があったのを了承した。

三 当日拜礼の状況

一 拜禮前には生花 生果 菓子等を供へ拜礼者は為り
簡單な休憩室を設け拜禮室とは常時係職員一名を

配し準備を整えた。

二 供 花

吳 市 長

花 輪 一 対

在日本朝鮮人總連合会廣島縣本部

同 吳支部

花輪 一社
(常置員一)

在日本大韓民國^駐留民國廣島縣本部

同 吳支部

花輪 一社

3. 礼拝者

吳市社會部長 同 社會福祉事務所長

朝鮮系朝鮮人 十九名

（註）
同系朝鮮人の礼拝は有りません。

4. 平電

在日本朝鮮人總連合会廣島縣尾道支部より「廣島凡

緯英靈十一周年忌に祈る」の平電がよせられた。

五 拜礼の模様

拜礼した朝鮮人十九名は殆んどが朝連縣本部より各々支那の役員のようにあつて概ね一〇三〇前後の人数集り各個に
拜礼し当部備付の芳名録に全員記帳を行ひ休憩室
に談話に耽つていた。

一三〇〇頃再び総員霊前に整列（当部職員係長以上参加）
拜礼し追悼文を捧げた後一三三〇頃全員引揚がた。

四 其の他

終始穩健な態度で接し特に要本事項等はよくおしり
御霊奉安の芳名に對して感謝の意を表していた。

追悼文は六百三十字の上り長いものを日本語と朝鮮語で混
合綴りして転写する。該文は別紙の通りが有りませう。

(別紙添)

(添)

呉復才一六号の一四

昭和三十一年九月三日

呉地方復員部長

厚生省引揚援護局業務才二課長殿

事務連絡

八月二十四日の浮島丸遭難者命日の朝鮮人関係行事は左記の通り特に問題もなく静穏に終りました。

記

一 八月二十日在日本朝鮮人総連合会広島県呉市部の崔海文氏が来部し今年は特に慰靈祭を行わない所存であるから当日は一定時間に各個自由拝礼がしたいとの申出があつたので拝礼時間を一〇〇〇より一五〇〇までと定めて了承した。

翌二十一日に朝連広島県本部の
氏より前記同様の電話
連絡があつたので了承した。

二 八月二十二日在日本大韓民国居留民団広島県本部から供花
ならびに拝礼をした旨電話連絡があつたので了承した。

三 当日拝礼の状況

一 靈前には生花、生果実、菓子等を供え拝礼者の爲に簡単
な休憩室を設け靈喪室には常時係職員一名を配して準備を
整えた。

2 供花

呉市 長 花輪一対

在日本朝鮮人総連合会広島県本部 花輪一対

同 呉支部 (常置用)

在日本大韓民国居留民団広島県本部 花輪一対

同 呉支部

3. 礼 拝 者

呉市社会部長 同社会福祉事務所長

朝連系朝鮮人 十九名

(註) 民団系朝鮮人の礼拝はありませんでした。

4. 電 報

在日本朝鮮人総連合会広島県尾道支部より「浮島丸御英

霊十一層忌を祈る」との電報がよせられた。

5. 礼 拝 の 模 様

礼拝した朝鮮人十九名は殆んどが朝連県本部ならびに各支部の役員のものであつて概ね一〇三〇前後に参集、各個礼拝し、当部備付の芳名録に全員記帳を行い休憩室で談話に耽つていた。

一二〇〇頃再び総員霊前に整列（当部職員係長以上参列）

四 拜礼し追悼文を捧げた後一二三〇頃金員引揚げた。
其の他

終始穩健な態度で接し特に要求事項等はなく、むしろ御靈奉安の勞苦に対して感謝の意を表していた。
追悼文は六百二十字に上る長いもので朝鮮語で綴られていたが、その譯文は別紙の通りであります。

(別紙添)

(終)

追悼文

幽明境を異にした貴方達の十一週年を迎えた今日、我々は貴方達の靈を慰めます。

貴方達をして悲惨な状態に至らしめた帝国主義者達に対する憤怒と憎悪心を新らたにし、野獣のような蠻行をこゝに今一度糾弾する次第です。

貴方達の遺骨が祖国のふところに抱かれるようになることを約束し又努力もしたのですが未だ実現されず涙の溢れた貴方達の嘆息の歴史が全世界に明らかにされないうまゝ依然として恨多いこの地の一隅で哀しく眠つています。

貴方達の悲願であり、我々の希望する祖国の道を妨げているのはあなた達をこのような惨事に透引した戦争狂信者達が自己の罪行を反省せず殺人と吸血による利益を追求しようとする手段を捨てず、脅

迫と買収と欺瞞でもつて政權を取つてゐるためでありませう。しかし乍ら全世界は斯様な奴等の蠻行を許容しないものであり、戦争挑発者達の弔鐘が鳴るのも遠くないのであり、我が民族の悲願たる南北の統一を妨害する米帝とその手先共の發惡を追撃する鉄槌となる朝鮮労働黨三次全黨大会の決議も實踐的であり、三千万の要望に符合する平和的祖国統一に対する方案たる宣言に依拠した行動が遼原の火の如く広まつており、在日六十万の胸にも波動してゐる。この偉業を達成することが貴方達の恨みをはらすことになり、我々の念願を勝取することになるもので同胞間の和睦と団合でもつて實際身論を喚起させることが貴方達五二四柱の靈を慰めるものであり静かに安置された祖国のふところに抱かれる道となると考えます。斯様な運動を推進させることゝ暴惡無道な日政の蠻行を糾弾する声なき貴方達の声に代つて全世界に叫ぶことを約束して貴方達の冥福を祈る次第です。

一四五六年八月二十四日

在日本朝鮮人總連合會広島県本部

代表

